

様式第五十の二（第48条第6項関係）

認定事業適応計画の実施状況の概要の公表

1. 認定の日付
令和4年2月22日
2. 認定事業適応事業者の名称
株式会社北海道エアシステム
3. 認定事業適応計画の実施期間
令和4年3月1日～令和8年3月31日

4. 認定事業適応計画の実施状況

(1) 事業適応計画に係る事業の目標の達成状況

本計画では、ポストコロナにおいて、北海道内の基礎需要（生活・医療・ビジネス等）の拡大、および観光需要の取込み強化により、需要総量の増加を図るとともに、それに対応する供給量確保のため、機材の大型化、および機材の効率化による航空ネットワークの拡充を図ることとしている。

この計画のうち、令和4年度においては、令和3年度に導入した従前より大型のATR機を活用し供給量を最大化するとともに、一層の機材効率化を推進し、夏ダイヤから丘珠＝利尻線を週末1便/日→2便/日に、10月24日から丘珠＝函館線を最大6便/日→7便/日に増便を行うことで、ネットワークの充実を図った。丘珠＝函館線の増便では、函館空港に機材を夜間駐機させることで函館空港早朝発、夜間到着の運航ダイヤを実現し、地方発札幌行きの新たな需要の掘り起こしに努めた。また、コロナ影響からの需要回復を後押しすべく、観光需要の掘り起こしに向けた施策として、タイムセールの実施、北海道の補助金を活用した割引運賃の提供などの運賃施策を実施するとともに、道内企業が提供するキャラクター「雪ミク」とのコラボ施策として、機体ラッピング、スタンプラリー、チャーター便の運航などを実施し、需要喚起を講じた。その結果、旅客数はコロナ前のCY2019と比較し112%を達成した。

(2) 生産性を相当程度向上させること又はその生産し、若しくは販売する商品若しくは提供する役務に係る新たな需要を相当程度開拓することを示す目標の達成状況

令和4年度においては、コロナ影響から本格的に需要が回復する中、機材の大型化、および機材稼働の向上によって増便を図り、コロナ前のCY2019、および前年度と比較し、それぞれ座席数で133.7%・134.8%と大幅な供給増を達成した。また、旅客需要は、(1)に記載した各種需要喚起策を実施した結果、CY2019、および前年度と比較し、それぞれ112.4%・153.8%と大きく増加した。その結果、全体の売上高としては4,318百万円を計上し、令和元年度、および前年度と比較し、それぞれ+808百万円・+23%、+1,555百万円・+56%の増加となった。また、営業利益は3年ぶりの黒字に転換し、減価償却費を加味したEBITDAマージンは17.6%と、基準年度である令和2年度の△19.2%から36.8%ポイント向上した。

(3) 財務内容の健全性の向上を示す目標の達成状況

財務内容の健全性の向上指標については、令和4年度は有利子負債/CFが5.5倍となり、経常収支比率が128.4%となった。

(4) 実施した事業適応計画の内容

令和3年度に取得した従前より大型のATR-600型機を有効活用し、令和4年度は、大型化に伴う供給増と丘珠＝利尻線・丘珠＝函館線の増便によるネットワークの拡充を図った。その結果、令和4年度の売上原価を売上高で除した値は基準年度である令和2年度と比較し、29.2%削減した。